

広報おおき

No.502
2023
令和5年
1月号

こころ豊かな暮らしづくり・まちづくり

新年のご挨拶 2～3ページ

まちに眠る宝 「竹本南部太夫の墓碑」と「義太夫稽古本」6～9ページ

写真：12月3日の「ホリーナイト」の点灯カウントダウンに集まった皆さん（裏表紙に関連記事）



持続可能な協働のまちづくりを更に発展させる年に



新年明けましておめでとう
ございます。町民の皆さまに
おかれましては、ご家族とご
一緒に、希望に満ちた健やか
新春をお迎えのことと存じま
す。また、日ごろから協働の
まちづくりに向けて、地域や
各種団体活動などさまざま
場面において、住み良いま
ちづくりのためにご支援・ご協
力をいただき心から感謝申し
上げます。

引き続きコロナ対策が課題

さて、昨年も、コロナ禍に
おける町政運営となりました
が、町民の皆さまの暮らし
援、経済支援対策を最優先に

取り組んでまいりました。ま
た、町民の皆さまには、感染
防止対策やワクチン接種など
にご協力いただきありがとうございます。
本町においては、
9月26日までに2千968人
(内一昨年末までは102名)
の感染が確認されるなど、年
初からオミクロン株による感
染が急拡大しましたが、徐々
に感染者も減少し、さまざま
なイベントも再開されていま
す。しかし、寒くなるにつれ
て感染者も増えており、イン
フルエンザとの同時流行も心
配されておりますので、早め
のワクチン接種と感染対策の
継続をお願い致します。しば
らくはウィズコロナの下での
生活になりますが、引き続き
ご協力をお願い致します。

地域自治元年としての

大きな一歩

人口減少・少子高齢化社会
が急速に進行し、さまざま
な地域課題に直面しています。

一方で気候変動による影響は
年々深刻化し、本町におい
ても豪雨や夏の猛暑など異常気
象による災害が常態化してい
ます。更にコロナ禍やロシア
のウクライナ侵略などのリス
クにも直面し、急速な社会の
変化に対応できるまちづくり
が求められています。さまざま
なリスクへの最も効果的な
備えは、地域の皆さまが日常
的に繋がりを強め、みんな
で協力し合う共助社会を作るこ
とです。昨年は、区長や地区
役員の皆さまのご尽力で、多
くの地域で行政区から自治区
へ移行して頂きました。町民
の皆さまと寄り添える行政を
目指した役場の改革と、地域
住民の皆さまの地域を良くす
るための自治活動が両輪とな
り、協働のまちづくりを更に
進化させることが、困難な状
況における町の発展の原動力
になります。ちょうど良い町
の規模と町民の皆さまのま
ちづくりへの熱意が大木町の
大きな強みであり、町民の皆

まとの協働を更に進化させ、
「小さいけれどキラリと光る
まちづくり」を皆さまと目指
してまいります。

今年が町長選挙と

町議会選挙の年

今年(1月29日(日))には町長
選挙、4月の統一地方選挙で
は町議会議員選挙が行われま
す。時代が大きく変わり、次
の世代にどんな町をバトン
タッチできるのか問われる
大切な選挙です。町民の皆さ
まも町の将来のことを一緒に
考えて頂き、投票して頂きま
すようお願い致します。

結びに、令和5年が町民の
皆さまにとりまして、素晴ら
しい年になりますことをご祈
念申し上げ、新年のご挨拶と
致します。

大木町長 境 公雄

恩を送ろう次の議会へ！



新春をお迎えになり、町民の皆さまには希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。

町民の皆さまには、日頃より町議会に対し温かいご支援とご協力を賜り、心から厚く感謝申し上げます。

1947年（昭和22年）日本国憲法と同時に施行された地方自治法も、施行より70有余年が経過しました。この間、住民に最も身近な市町村の二元代表制の一翼を担う議決機関として、今日の地方分権の大きな流れの中でその役割の重要性も増してきております。

戦後復興から高度経済成長期、バブル経済を経て、世界

に類を見ない経済大国へとなった日本は、バブル崩壊、金融危機などの経済の低迷期を経験し、本格的な少子高齢社会に直面し、経験したことのない困難な時代を迎え、今また新型コロナウイルス感染症という新たな脅威にさらされています。

直近の国勢調査では、本町の人口もついに1万4千人を割り込みました。今こそ国や地方も人口減少対策に真剣に向き合い、議会や行政サービスの維持をはじめ、複雑多様化する課題や災害対策などに十二分に備え、取り組みを強化していく必要があります。限りある行政資源を有効に活用し、町民の皆さまのご理解とご協力の上に、それぞれの山積した課題の優先順位を明確に示し、住民サービスの低下を招かぬよう努めなければなりません。

議会では、各議員がその持つ力を十二分に發揮し、知恵を出し合い、コロナ禍にお

いても一人でも多くの町民の皆さまの声に耳を傾け、その声を“力”として、住んで良かった、住み続けたい大木町として選んでいただける施策づくりを展開することで、活力に満ちた発展し続ける大木町を希求してまいります。

さて、コロナ禍において議会活動が見えにくい状況ではありますが、本町議会では定例会において子育て世代にも気軽に傍聴いただけるよう、託児ボランティアの皆さんの協力を得て、事前申し込みによる託児受入も実施しています。どのような議論を経て政策の決定がなされているのか、間近に感じていただきたいと思っております。

その他の情報提供の手段として、庁舎一階で議会開催中のモニター放送、公式LINEによる情報発信や一部議会広報のカラー化にも取り組んでおります。さらに議案審議においてはタブレット端末を活用し、効率の良い運営を図

りつつあります。議場音響機器についても検討を進め、充実したネット配信を模索するなど、住民にわかりやすい政治参画の機会を提供できればと考えております。

私たちの任期も残すところ半年を切りました。改選を控える年にもなりますので、将来を見据えた議会の在り方を全議員で熟慮し、協議を進めながらより良い議会の姿をお示しできるよう努めて参ります。今後も議会の活性化を推進し、議会議員としての責任を自覚し、執行部との議論を深め、町民の皆さまの期待と負託に応えられるよう次の議員を目指す方へ、恩送りの精神“で取り組んでまいります。

結びに、本年が町民の皆さまにとりまして、より実りある飛躍の年となりますよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。

大木町議会議長 中島 宗昭

令和4年の出来事



6月

大莞少年消防クラブ総務大臣賞を受賞



4月

西松建設連携協定



1月

町食生活改善推進委員会、受賞



10月

堀ダイミュージック開催



5月

福岡県い業会館国登録有形文化財
(建造物) 登録記念式典



2月

春高バレー代表選手吉武美佳さん訪問



11月

さるこいフェスタ開催



5月

軒先マルシェ開催



3月

吉住聖香さん卓球全国V

令和4年の出来事

1月 春高バレーに大木町出身3人出場
町食生活改善推進委員会、受賞

2月 春高バレー代表選手吉武美佳さん訪問、
ふるさとWish

3月 吉住聖香さん卓球全国V

4月 西松建設連携協定

5月 福岡県い業会館国登録有形文化財
(建造物) 登録記念式典、
軒先マルシェ開催

6月 大莞少年消防クラブ総務大臣賞を受賞を報告

7月 おおき子育て応援券の発行

8月 おおきDEくらし応援券の発行、
サイエンスイベント開催

9月 大木かたらんね体操、
大木つ子のびのび体操CD、DVD完成

10月 堀ダイミュージック開催、
マイナンバーカード特設窓口開設

11月 さるこいフェスタ開催、
広報おおき創刊500号、
デジタル活用支援員養成講座開設

12月 石丸山ホリーナイト点灯式

WAKKA トレーラーハウス リニューアル OPEN

Snow Peak 製

WAKKA 内にあるトレーラーハウスが塗装の塗り替え工事を終えリニューアルオープン！
外観の色が黒になり、よりおしゃれに生まれ変わりました。
初心者でも手軽にキャンプ気分が味わえる WAKKA のトレーラーハウスではエアコンや電気ケトル、
冷蔵庫も完備。フリー WiFi も付いているので子ども連れでも快適！！
キャンプグッズのレンタルも充実しているので食材を持ち込むだけの手ぶらのアウトドアも OK ！

わ トレーラーハウス宿泊 (ご予約・ご入金はお利用の3日前)

(町内の方) 宿泊利用 1 棟 3,000 円 + (宿泊税 1 人あたり 200 円)
(町外の方) 宿泊利用 1 棟 6,000 円 + (宿泊税 1 人あたり 200 円)
チェックイン 15 時～17 時 30 分
チェックアウト 翌日 10 時

わ トレーラーハウス日帰り (ご予約・ご入金はお利用の3日前)

(町内の方) 日帰り利用 1 棟 1,500 円
(町外の方) 日帰り利用 1 棟 3,000 円
チェックイン 10 時～
チェックアウト 15 時



アウトドアグッズ(レンタル)



BBQ台 ¥500



テーブル小 ¥100



テーブル大 ¥200



椅子 ¥50



焚火台 ¥500



テント大 (5~7人)
¥4,000



テント中 (3~4人)
¥2,000



タープ ¥1,000



寝袋 ¥500

わ テントサイト (ご予約・ご入金はお利用の3日前)

宿泊利用 1 区画 1,000 円 (5 m × 5 m)
チェックイン 15 時～17 時 30 分
チェックアウト 翌日 10 時

詳しくは WAKKA のホームページにも
掲載しております。ご予約・お問い合わせは
WAKKA 公式ラインまたはお電話で
お受けしております。

☎大木町地域創業交流支援センター WAKKA
☎0944-78-2472



WAKKA
公式LINE
QRコード



まちに眠る室

「竹本南部太夫の墓碑」と

「義太夫稽古本」

野口中野の鎮守、三島神社の参道に至る道の入口近くにある、高さ2mほどの石碑をご存知でしょうか？

この石碑は、明治時代にこの地で義太夫節を広めた竹本南部太夫という人物の墓碑です。

竹本南部太夫のことを、これからご紹介しようと思いますが、その前にそもそも浄瑠璃とは何か？からお話したいと思います。

浄瑠璃ってなに？

浄瑠璃とは、三味線伴奏による語り物の一つです。語り物とは、三味線で拍子を取りながら語って聴かせる物語の事を指します。三味線の演奏に合わせて太夫と呼ばれる語り手が物語を語るという形で演じられます。もともと浄瑠璃は、扇や鼓で拍子を取ったり、琵琶の伴奏で語られていました。室町時代の三味線伝来とともに、三味線が浄瑠

璃の伴奏に使われるようになりました。この時代に誕生した語り物の中に、牛若丸と浄瑠璃姫のロマンスを題材にした物語があり、人気を集めました。この物語の浄瑠璃姫の名前にちなみ、その後に行われた語り物が「浄瑠璃」と呼ばれるようになりました。そしてその浄瑠璃も、語り手によって節の語りまわしが違ったことから様々な流派が生

まれ、演奏者の名前をつけて「○○節」という名前で呼ばれるようになります。代表的なものとして、後述する関西で発展した「義太夫節」、江戸で発展した「清元節」、「新内節」などがあります。



物語を語る太夫



竹本南部太夫の墓碑

義太夫節ってなに？



浄瑠璃に使われる人形とそれを操る人形師

竹本南部太夫ってどんな人？

竹本南部太夫（二代目）は本名を藤瀬源次といい、佐賀県杵島郡に生まれ、明治時代前期に義太夫の名手として活躍した人物です。

彼は当時最高の名手と言われた二代目竹本越路太夫（のちの竹本摂津大掾）の下、大阪で義太夫の修業を積み、明治2年（1869年）に浄瑠璃の組合、因講に入り、明治3年（1870年）に竹本亀久太夫の名前で初舞台を踏みます。

その後順調に公演を重ねた亀久太夫は、明治8年（1875年）に師匠越路太夫がかつて名乗っていた「南部太夫」の名前を継ぎます。二代目竹本南部太夫の誕生です。こうして日本における義太夫名匠の一人に数えられるまでになった南部太夫ですが、明治11年（1878年）以降は義太夫の本場大阪を離れ故郷九州に滞在することが多くなります。弟子の竹本南島太夫（本名…中島謙吾）が住む大木町三八松の野口に

も訪れ、この地方の義太夫の普及に力を尽くしたそうです。

南部太夫は明治17年（1884年）以降再び大阪で公演を行うようになります。明治19年（1886年）11月の公演を最後に文楽座の舞台から姿を消し、明治29年（1896年）4月14日に死去しました。その功績を讃える墓碑が南島太夫の手によって野口中野に建てられました。

竹本南部太夫の墓碑の横には、大木町教育委員会が昭和63年に立てた看板があり、「墓碑は野口正昭氏宅入口の県道端にあつたが、県道拡張のため、現在地に移転されたもので、元の墓地を寄進したので、正昭氏の曾祖父南島太夫

である」と記述があります。地域の人の話によると、この墓碑を寄進した南島太夫の自宅に竹本南部太夫が寝泊まりし、地域の人々に義太夫節を教えていたそう、現在も南島太夫のひ孫にあたる人がお住まいです。野口中野地区でも昔のことを知っている人が段々少なくなってきたため、11月13日に開催されたさるこいフェスタでは、竹本南部太夫のことを伝えるパネル展示や文書の配布など、地域の文化財を守り伝える取り組みをされていました。

◀さるこいの時の様子

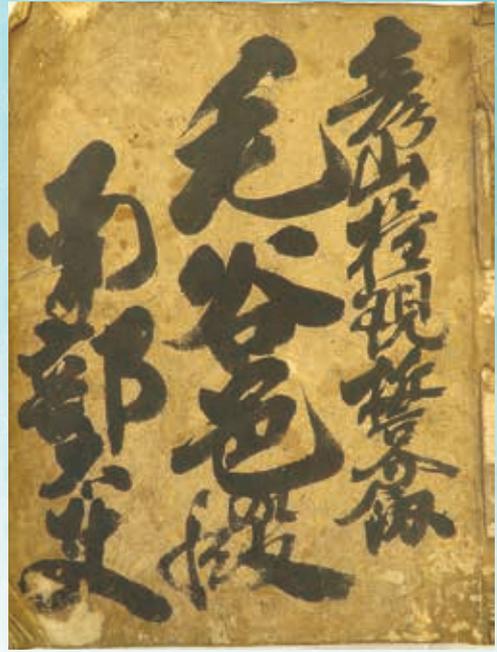


義太夫節とは、江戸時代に大阪の竹本義太夫が創始した浄瑠璃のひとつの流派です。現在残っている浄瑠璃の流派は全部で8種類ありますが、中でも義太夫節は豪快でダイナミックな曲調を特徴とし、太夫の語り口調は高音から低音まで幅広く、とても表現力が豊かな浄瑠璃です。

義太夫節は「人形浄瑠璃」を得意としており、創始者の竹本義太夫は竹本座を起し、作家の近松門左衛門とタッグを組んで人形浄瑠璃を上演し、次々とヒット作を生み出します。以降浄瑠璃は江戸時代を代表する大衆娯楽となり、その最大流派である義太夫節は戦前まで日本中に教室があつたそうです。

現在、義太夫節は国の重要無形文化財に指定されています。

大木町所蔵の義太夫稽古本



「彦山権現誓助剣・毛谷村の段」の表紙

大木町図書・情報センターには、南部太夫の弟子たちが使用していたとみられる義太夫の稽古本が12冊保管されています。和綴じにより製本された冊子で、いずれも作品の一部（段）を抜き出した「抜本」といわれるものです。表紙の右に作品名（1冊だけ作者名）、中央に段名、左に使用していたと思われる人物の名前が記されています。人物名は、南嶋大夫が9冊で、南部太夫、竹本小七、豆象が各1冊ずつとなっています。南部太夫以外の3名は恐らく彼の弟子でしょう。1冊だけ

南部太夫の名前が書かれた本がありますが、中に南嶋大夫の名前があるため、おそらくは南嶋大夫が師匠の南部太夫から譲り受けたものだと考えられます。

中にはメモ書きが残っているものもあり、そこには熊本県の飽託郡戸嶋村（現在の熊本市西区）や下益城郡松橋町（現在の宇城市）の操り人形師の名前や、宮崎県の西臼杵郡鞍岡村（現在の五ヶ瀬町）の地名が見られ、九州中で活動・交流があったことがうかがわれます。

稽古本の左下端には、何度

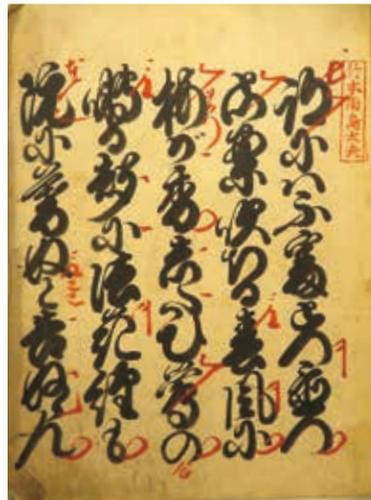
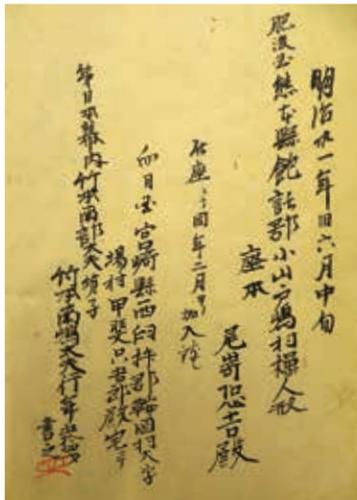
となくめくられてきたことによる汚れと劣化が見られ、日本を代表する太夫の下、ひたむきに義太夫節に打ち込む彼女の姿が思い起こされます。そしてそんな彼らの義太夫節への情熱と誇りを、「竹本南部大夫／日本一／幕内」と刻まれた南部太夫の墓碑は、義太夫節のように力強く私たちに語り掛けてくれます。

写真右)

「彦山権現誓助剣・毛谷村の段」冒頭

写真左)

「摂州合邦辻・合邦内の段」内にあるメモ書き



足元の宝を

見つめなおす



実は、この「竹本南部太夫の墓碑」をはじめとする、大木町の文化財や史跡・遺跡、寺社などの情報をまとめたパンフレット「大木町文化財・史蹟めぐり」が今から20年ほど前、2000年版まで発行されていました。そして現在、文化財専門委員や町の学芸員を中心にこのパンフレットの改訂作業が進められています。現在、在庫限りになります。2000年版パンフレットを図書・情報センターで配布しています。歴史が好きな人、町の事をもっと知りたい人、来夏の自由研究のタネを探している人などなど興味がある人は是非図書・情報センターへお越しください。

◎図書・情報センター

☎0944・32・1047

大木町所蔵義太夫稽古本リスト

	作品名	段名	作者	備考
①	彦山権現誓助剣 <small>ちかいのすけだち</small>	けや 毛谷村	うめのしたかぜ ちかまつやすぞう 梅野下風・近松保蔵	「南部太夫」のものを「南島太夫」が譲り受けたか？ 筆書き。
②	神霊矢口渡 <small>やくちのわたし</small>	ゆらひょうごやかた 由良兵庫館	ふくうちきがい ひらがげんない 福内鬼外 (平賀源内)	使用者「南島太夫」。筆書き。明治31年熊本県旧松橋町の操り人形師が加入したときのメモ書きあり。
③	まくらつばうらみのさめぎや 桜鏢恨鮫鞘	うなぎたに 鰻谷	ふるてやはちろべえ 古手屋八郎兵衛	使用者「南島太夫」。筆書き。「明治34年旧11月」の書き込みあり。
④	ひらかな盛衰記 <small>せいすい</small>	さかる 逆櫓	ぶんこうどう 文耕堂ほか	使用者「南島太夫」。筆書き。明治31年熊本県旧戸嶋村の操り人形師が加入したときのメモ書きあり。
⑤	源平布引滝 <small>ゆのびき</small>	まつなみびわ 松波琵琶	なみきせんりゅう みよししょうらく 並木干柳・三好松洛	使用者「南島太夫」。印刷。明治25年大阪行のときのメモ書きあり。
⑥	新版歌祭文 <small>しんばんうたざいもん</small>	野崎村	ちかまつはんじ 近松半二	使用者「南島太夫」。筆書き。
⑦	東海道四谷怪談	すみか 伊右衛門住家	つるやなんぼく 鶴屋南北	使用者「南島太夫」。印刷。
⑧	摂州合邦辻 <small>がっほうのつじ</small>	がっほううち 合邦内	すがせんすけ わかたけふえみ 菅専助・若竹笛躬	使用者「南島太夫」。筆書き。明治31年熊本県旧戸嶋村の操り人形師が加入したときのメモ書きあり。
⑨	関取千両幟 <small>のぼり</small>	いなかわうち 猪名川内	近松半二ほか	使用者「南島太夫」。筆書き。
⑩	一谷嫩軍記 <small>いちのたにふたば</small>	くまがいじんや 熊谷陣屋	そうすけ 並木宗輔	使用者「南島太夫」。筆書き。
⑪	日本賢女鑑	かたざり 片桐忠義	近松やなぎ・近松松助 <small>まつすけ</small>	使用者「竹本小七」。筆書き。
⑫	仮名手本忠臣蔵	やましなかんきよ 山科閑居	たけだいずも 竹田出雲ほか	使用者「豆象」。筆書き。



⑩一谷嫩軍記

源氏と平氏が激突した「一の谷の合戦」が舞台。主人公の熊谷次郎直実は、源義経から敵軍の平敦盛の命を助けよとの密命を受ける。



⑫仮名手本忠臣蔵

南北朝時代が舞台の軍記物『太平記』の登場人物・設定を借りて「赤穂浪士の仇討ち」を描いた作品。江戸幕府は同時代の政治的事件を脚色することを禁じていたので、別の時代の物語として作品にする必要がありました。

出典)
竹本住大夫『文楽のこころを語る』
株式会社文藝春秋 2003年8月30日
桐竹勘十郎 吉田玉女『文楽へようこそ』
株式会社小学館 2014年4月23日

おい
大莞なる

大木さるこいフェスタ 2022



がんばるぞ!!

スタート

秋も深まる 11月13日、3年ぶりに開催された大木さるこいフェスタ。
約 300 人の皆さんが、大莞校区西側の各地域の皆さんの温かいおもてなしと共にのんびりとさるき（歩き）ました。



準備運動をして、いざスタート



リアカー隊も準備万端

中村



旅役者も登場？お侍の仮装でお出迎え



売店も大盛況



大豆からきな粉づくり。
石臼うまく回るかな？



大莞発祥の水車。
これで昔の農家さんは大助かり！

荒牟田

筏溝上



獅子舞で厄払い



事前の試食会ではみんなで話し合い、
うまくだけました。

筏溝下



いろんなかかしを作ってお出迎え



子どもたちも準備のお手伝い

野口中野



きのこ・小ねぎ・ミニトマト
どれも美味しい農産物いっぱい



貴重な掛川織の手織り体験
カラフルなござがきれいだね



きれいな花でおもてなし



屋根の上もきれいに飾り付け

吉祥

たのしかった～

ゴール

今回は途中小雨も降り肌寒い中、団体の皆さん手作りのきのこ汁やキノコカレーなど温かい食事でおなかも体もポカポカに満たされました。



11月27日秋晴れの中、大莞秋の文化祭で小祭りが開催されました。新型コロナウイルスの影響で大莞祭りが中止となり、何か子ども達の思い出作りのためにと、ふるさと大莞活性化委員会を中心にPTAや地域の有志の方の協力により開催することができました。当日は、太鼓の演奏、子ども達の出し物、射的やヨーヨー釣りなど賑やかな小祭りとなりました。



大莞秋の文化祭
初の小祭り開催

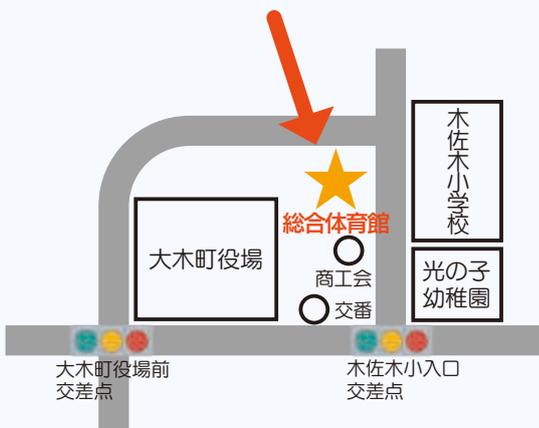
大木町長選挙のお知らせ

任期満了に伴う大木町長選挙が、1月29日(日)に行われます。この選挙は、大木町のリーダーを決める大切な選挙です。必ず投票に行きましょう。

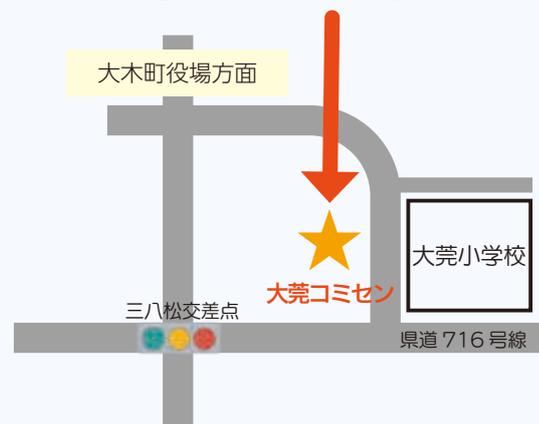
令和5年
投票日 **1月29日(日)**
7時～20時



第2投票区 大木町総合体育館研修室



第3投票区 大莞コミュニティセンター



- ◆ 立候補の届出について
〈選挙期日の告示日〉
- 日時
1月24日(火) 8時30分～17時
- 場所
役場3階 第4会議室
- ◆ 開票について
〈即日開票します〉
- 開票開始時間
1月29日(日) 21時～
- 開票場所
町総合体育館



※投票所の一部が変更されていますので、御注意ください。

投票所

投票区	投票所	住所
第1投票区	大溝小学校体育館	前牟田 752 番地 2
第2投票区	★大木町総合体育館研修室	八町牟田 617 番地 1
第3投票区	★大莞コミュニティセンター	三八松 384 番地

★マークの場所に変更となりました。

- 令和4年度「明るい選挙啓発ポスターコンクール」表彰
選挙や政治に対する関心を高め、明るい選挙の実現を呼び掛けるため、町内の小・中学生を対象に明るい選挙啓発ポスターの募集が行われ、99作品の中から10名が表彰されました。(敬称略)
- 町長賞**
大木中学校2年 馬場 百々花
- 教育長賞**
大木中学校2年 松本 葉奈
大木中学校2年 松尾 梨央
- 議長賞**
大木中学校2年 南 梨恋
- 大溝小学校6年 本村 璃乃
大木中学校2年 吉田 涼花
- 大溝小学校6年 堀田 慶
選挙管理委員会委員長賞
大木中学校2年 野田 愛珠美
大溝小学校6年 中島 萌々香

